

地域医療研修を終えて

この度、地域医療研修としておのクリニックにて4週間研修させていただき、大変貴重な経験をする事ができ、医師としての考え方や価値観を大きく変えるきっかけとなりました。

最も大きな点としては「死への考え方」という点で大きく考え方が変わりました。私は、初期研修を徳山中央病院で行っており、現在1年3ヶ月の研修期間を終えています。徳山中央病院で1年目に、内科や小児科、産婦人科をローテーションして、様々な疾患を経験し、また救急外来にて中には命を落とす可能性もある急性期の状態の患者さんを診ることができ、医師としての考え方やスキルを学ぶことができました。そこでの目標は基本的には死は恐れるものであり、避けなければならないというものでした。おのクリニックでは在宅での訪問診療を数多く経験することができました。在宅では患者さんはその人らしく、家族に見守られて安らかにこの世を去ることを目標にしています。その場における死は必ずしも避けるべきものではなく、尊きものであり、医師、訪問看護師、介護士、ご家族の方などその方に関わる人々のある意味で目標であるものでした。正直にいうと最初はその点に戸惑いも感じていました。

私がおのクリニックで研修をして、2人目のお看取りをさせてもらう際に死亡確認を任せていただく機会がありました。その方は数日前に、院長先生からご家族の方にそろそろかもしれないという話をされており、その際のご家族の反応は当然悲痛なものでありました。そのため私は死亡確認後も当然悲痛な空気となると思い、その際に自分にどのような声掛けができるだろうかと考え臨みました。しかし私の死亡確認後、院長先生から「ご本人も、ご家族も立派な最期でしたね」というお話があると、何かご家族方の表情は晴れやかで、その後の着替えや清拭では、娘さん方が笑顔で故人の生前の愚痴を話す場面などが見られ、終始和やかなお看取りでした。これはご家族がそれまで努力し、訪問看護師、医師などがフォローしながら達成できた結晶であると思いました。その場面に立ち会い、大変微力ではありますが私とその最期に関与でき、良い経験ができたと思いました。

また、訪問診療している方で大好きだったお寿司を食べている際に急変し亡くなられた方がいらっしゃいました。その方のご家族は突然のことでありましたので、悲痛な様子もありましたが、最後に本人の好きなものを食べられて良かったと、どこか満足している様子でありました。自分のやりたいように生きるその方らしい最期であったとのことでした。病院であればそのように好きなものを食べて逝くなどということは難しいと思います。私自身死ぬときには好きなものを食べて死ぬような人生がいいなと思いました。

訪問診療ではその方の家庭での生活が見られるため、その方の置かれた背景や、その人の生き方が自然と見て取れるところがありました。数人のお看取りを経験させていただきましたが、その人それぞれに生き方があり、亡くなり方がありました。そこに共通していたのは家族を中心とし、その方に関わった人の努力で尊い死を迎えている点でした。尊き死を共に経験させていただくことで最初に抱いた戸惑いは、徐々になくなっていきまし

た。私はこの研修期間を通して、急性期にその人の命を助ける、治す医療と同時に、人それぞれの背景や生活にまで目を向け、その方をサポートする医療を知ることができました。これからの医師生活の中でその人を医学的に治すことはもちろん、人それぞれの生活を考えた医療を提供できる医師になることがこれからの目標となりました。

最後になりますが、ご多忙の中貴重な時間を割き、私にこのような貴重な経験をさせてくださり、支えてくださった、おのクリニックのスタッフの皆様方に心より感謝申し上げます。4週間、大変お世話になりました。